

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

YouTube チャンネル 花博チャンネル (青少年向け環境授業)

『製材所の仕事』

令和7年12月22日視聴開始

<https://www.youtube.com/watch?v=J4vWeV6ph6I>

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、「自然と人間との共生」に関する事業を進め、潤いのある社会づくりに寄与しています。

その事業の一つとしてYouTube 花博チャンネル(青少年向け環境授業)を開き、今回は吉野山の『製材所の仕事』を取り上げました。



1939年完成時の吉野貯木場

吉野貯木場は昭和14年(1939)完成し、原木販売が中心の時代から、付加価値の高い製材品へと転換する契機となりました。製材所の仕事が森林資源を暮らしに結びつける重要な役割を担っていることが、この動画から伝わります。

映像では、丸太が運び込まれるところから始まり、樹種や太さに応じて選別され、巨大な帯鋸(バンドソー)や丸鋸を使って板材・角材へと切り分けられていく様子が丁寧に映し出されます。作業員は木目や節の状態を見極めながら、最適な切り方を判断し、無駄を最小限に抑える技術を発揮します。

切断後の材は乾燥工程で含水率を調整し、強度や耐久性を確保します。その後、仕上げ加工で寸法の精度を整え、建築現場で使える規格材として完成します。木材の特性を理解し、自然素材を最大限に活かすための職人の経験が生かされます。



貯木池



人力と馬車で運搬・積み下

写真:「ふるさと吉野懐古写真集」
吉野町文化協会編